

令和7年度 かほく市立河北台中学校 学校評価中間報告書

★は重点事項
肯定的な回答
() 内の数はより肯定的な回答

重点目標	具体的な取組	主担当	評価の観点	達成度判断基準 C又はDの場合、再検討	前期達成度 ()はより肯定的回 答	後期の方向性
1 学力向上に向けた取組の充実	① 校内研究会の充実 ・ 教科の見方・考え方に基づく「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた研究 ・ 及び実践 生徒指導の4つの視点を重視したわかる授業の実践	研究主任 学習研究委員会	【努力指標】教職員 生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問・指導をしている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	95% (64) A	1学期は個別最適な学びについて共通理解し、教科部会で共通に取り組むことなど話し合い、実践している。2学期は個別最適な学びを充実させていく。 授業では、自ら取り組もうとしている生徒が多くいることが伺える。
			【満足度指標】生徒 授業は分かりやすい	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	93% (57) A	
			【成果指標】生徒 授業では、互いの考えを出し合い、話し合う活動を通じて、自分の考えが深まっている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	92% (55) A	
	② 1人1台端末の積極的・効果的な利活用 ・ 教科における学びを深める活用	学習指導部	【努力指標】教職員 授業の中で、ICTの効果的な活用を工夫している。	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	91% (55) A	授業でのICTの効果的な活用を教員間で共有しながら進めている。今後もタブレット端末やデジタル教科書等を活用した授業に取り組んでいく。
			【努力指標】教職員 授業の中で生徒を見取り、具体的な支援や更に伸びる働きかけをしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	100% (45) A	
			【満足度指標】生徒 授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいる (R7県目標値95%)	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	88% (41) B	生徒主体の授業となるよう、教科部会をより充実させ、授業づくりに取り組んでいく。
	③ 学力調査の有効活用 ・ 学力調査結果を分析し、学力向上プランに基づく指導の徹底と検証 ・ 評価問題の有効活用	教務 教科代表	【努力指標】教職員 学力向上ロードマップや学力向上プラン、学校評価に基づく指導をしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	100% (50) A	学力向上プランの教員の意識を高めるため校内研修会での共通理解を図っていく。
			【成果指標】生徒 授業では、「自分と同じ(違う)」「なぜだろう」「その根拠は?」など考えながら聞いている	A:80% B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	80% (36) B	授業では、課題に対して自ら取り組もうとしている生徒が多い。まとめ、振り返りの活動を充実させ、学力の定着に結び付けてく。また、生徒には考える場面を設定し、考えをシェするなど、思考を深める工夫がより必要である。
			【努力指標】教職員 授業の最後に「まとめ・振り返り」「適用・活用」を意識して行っている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	100% (68) A	
	④ キャリア教育の視点を重視した取組推進 ・ 将来の夢や希望を持つことができる指導の工夫 ・ 総合的な学習の時間の指導の工夫	総合担当 学年会	【努力指標】教職員 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	82% (45) B	職場体験では実際の職場での活動を通して将来のことを考える機会になった。キャリア教育の視点で、外部人材等を活用するなどキャリア教育を計画的に進めていく。
			【満足度指標】生徒 将来の夢や目標を持っている	A:80%以上 B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	82% (48) A	
	⑤ 家庭学習の充実 ・ あと一問の理解」を意識した実践 ・ 課題への取組等をマネジメントする力の育成	各教科 学年会	【努力指標】教職員 宿題(提出物)に対して、コメントなどを通してフィードバックしている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	95% (50) A	生徒の取組に対しての点検及びフィードバックはできているが、生徒が主体的となって計画的に取り組めるようにさらなる工夫と支援が必要である。研究企画部、学年部会で実践を進める。
			【成果指標】生徒 自分で計画を立てて勉強している	A:80%以上 B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	75% (30) B	

令和7年度 かほく市立河北台中学校 学校評価中間報告書

★は重点事項
肯定的な回答
() 内の数はより肯定的な回答

重点目標	具体的な取組	主担当	評価の観点	達成度判断基準 C又はDの場合、再検討	前期達成度 ()はより肯定的回 答	後期の方向性
2 自己指導能力の育成を目指す生徒指導	① 基本的な生活習慣を高める指導の徹底 ・ 自然な挨拶、清掃、ペル学等の行動(生徒会や学年プロ委の活動の活性化により充実を図る)	生徒指導部 学年主任	【成果指標】生徒 清掃活動に時間いっぱい取り組んでいる	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	95% (63) B	清掃は週3日であるが、充実した活動となるように今後も指導していく。
	② 生徒指導の機能等を生かした、生徒一人一人の自己指導能力の育成 ・ 特別活動や帰りホーム等を活用した体制づくり 学級内の対人関係や集団活動・生活をする際のルールづくりや生徒相互に認め合うリレーションづくり 失敗から学び、次の挑戦に活かすための振り返り	生徒指導部 生徒指導委員会	【成果指標】教職員 学年担当全員で生徒を育てていく体制ができている 【満足度指標】生徒 学校へ行くのは楽しい 【満足度指標】保護者 お子様は、学校へ行くのが楽しいと言っている	A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満 A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	94% (56) A 89% (45) C 81% (42) B	挨拶の大切さについて気づかせ、職員の朝の挨拶運動、生徒会の挨拶運動等を継続して実施していく。 学校へ行くのがより楽しく感じられるように、授業の充実、学校行事の工夫等に取り組む。また、活動の様子をHP等で発信を行う。
	③ いじめ・不登校への適切な対応と教育相談の充実★ ・ 日々の見取り、毎月のアンケート調査や教育相談を活用した生徒の悩み等に組織で対応 生徒理解に基づく予防的・開発的生徒指導によるいじめ・不登校等の未然防止、早期発見、早期対応 ・ SC、教育相談員、関係機関等と連携した教育相談体制の充実 校内教育支援センター「Sルーム」の整備	生徒指導部 学年主任	【成果指標】生徒 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う 【努力指標】教職員 いじめや不登校傾向等がないか、生徒観察と理解に努めている 【努力指標】教職員 生徒を認めたり、励ましたりしながら長所を伸ばす指導をしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満 A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満 A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	98% (89) B 100% (77) A 100% (73) A	いじめは絶対に許されない行為であることを基本とした指導を継続的に行い、生徒会などでの啓発活動の充実も図る。 いじめ、不登校への未然防止、早期対応の徹底を継続的に行い、事後指導も大切に行う。 生徒の長所や取組の過程等を認め、生徒個々の良さを自覚できるように指導していく。
	④ 組織的な特別支援教育の推進 ★ ・ 学校全体で組織的計画的な支援を進めるための校内支援体制の充実 ・ 個別の教育支援計画、個別の指導計画等に基づく指導・支援の充実	生徒指導部 特支コ	【努力指標】教職員 特別な配慮が必要な生徒の共通理解を図り、個に応じた指導・支援に努めている 【満足度指標】保護者 学校は、お子様をよく理解し、指導している	A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	100% (82) A 77% (24) C	今後も生徒理解に努め、一人一人に応じた丁寧な指導をしていく。良い点を認め、言葉にしてほめ、価値付けする。必要に応じて家庭との連絡を密に行う。

令和7年度 かほく市立河北台中学校 学校評価中間報告書

★は重点事項
肯定的な回答
() 内の数はより肯定的な回答

重点目標	具体的な取組	主担当	評価の観点	達成度判断基準 C又はDの場合、再検討	前期達成度 ()はより肯定的回 答	後期の方向性	
3 信頼される学校づくり	① コミュニティー・スクール制度の積極的な活用 ・ 外部人材の有効活用 ・ PTAや生徒会と連携したボランティア活動の実施	教務 学年主任 生徒会	【成果指標】教職員 様々な体験活動において、外部人材が有効活用されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	95% (50) B	外部人材を活用した教育活動が生徒たちにも好評である。コミスクを中心として、今後も有効活用していく。	
			【満足度指標】生徒 授業や行事で専門家の人の話や活動は、より勉強になる	A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	96% (55) A		
			【努力指標】教職員 学校だよりやホームページ等で、教育活動や生徒の姿を発信している	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	100% (68) A		
	② 積極的な情報発信 ・ ホームページや学校だより等の充実 ・ 校区内の小学校への出前授業や学習掲示等の情報発信	教務 学年主任	【成果指標】保護者 学校からの便りやHPで学校の指導方針や子ども達の様子などがわかりやすく伝わってくる	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	90% (25) A	授業と総合的な学習の時間を軸に、学んだことの成果を表現する等、発信を行っている。今後も行事等も含め学校内の情報を保護者、地域へ発信する。	
			【努力指標】教職員 学校は小中連携を積極的に進めている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	後期		
			【成果指標】生徒 計画的に家庭学習をすすめることができている ＊学力向上の取組参考	A:80%以上 B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	75% (30) B		
	③ 小中連携の推進 ・ 校区の小学校との授業参観 ・ 小中9年間を見通した共通取組の推進	教務 生徒会	【努力指標】教職員 学校は小中連携を積極的に進めている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	後期	後期	
			【成果指標】生徒 計画的に家庭学習をすすめることができている ＊学力向上の取組参考	A:80%以上 B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満			
			【成果指標】教職員 若手教員をメンターとした若手研修会が充実している	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	95% (50) B	日頃より、授業づくりや学級経営等について情報交換している様子が伺える。 校内研修会等、職員がコミュニケーションを取りやすいような持ち方を工夫していく。	
4 人材育成と教育の質を高める働き方改革の推進	① 若手ミドルリーダーの育成の計画的実践 ★ ・ 若手教員をメンターとした若手研修会の実施 ・ 校務分掌等をペデランと若手がバディを組んで進めしていく	教頭 学校評価委員会	【成果指標】教職員 若手教員をメンターとした若手研修会が充実している	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	95% (50) B		
			【成果指標】教職員 学年や分掌等の取組について、教職員間の共通理解が図られている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	82% (45) B		
	② 業務の効率化の取組の推進 ・ 業務内容の見直し、業務量の平準化 ・ ICTの効果的な活用	校長 教頭 教務	【成果指標】教職員 定時退校時刻や定時退校日を意識して業務を進めるなど、働き方改革に努めている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	82% (32) B	校務DXを効果的な働き方、働きやすい環境づくりに努めていく。	
			【成果指標】教職員 ICT環境の整備で、業務が効率化されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	95% (50) B		